

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

リョービミラサカ株式会社

(2) 事業所の所在地

広島県三次市三良坂町皆瀬10075番地1

(3) 業種

2453 アルミニウム・同合金ダイカスト製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25年度を基準年度とし、平成28年度から平成32年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

リョービ(株)のグループ会社である当社は、「リョービ環境方針」の下に活動しています。

「リョービ環境方針」

リョービは、環境マネジメントシステムを構築し、事業活動、製品及びサービスによる環境への影響が大きい項目に関して、技術的及び経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定、見直しを行い継続的な改善を図る。また、これらの活動を通じて経営計画の達成を図るとともに社会の発展に貢献する。

1. ISO14001規格要求事項に沿った規定を制定し、実行する。
2. 環境関連の法律、規制、協定又は関連する組織が同意する環境関連要求事項を順守し、環境汚染を防止する。
3. 省エネルギー、廃棄物の減量化及び再資源化に取り組む。
4. 緊急時に廃油、灯油、重油、廃液、薬品、化学物質等が環境に著しい環境を及ぼさないよう予防措置に努め、訓練を行う。
5. 全構成員の環境に対する意識の向上を図るため、教育・啓蒙活動を行う。
6. 環境保全活動を通じて、地域社会に貢献する。
7. この環境方針は、全構成員に周知させるとともに、一般の人にも公開する。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成25年度	平成27年度
二酸化炭素	29,518	41,889	37,871

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成 年度	平成 年度
二酸化炭素			

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成 年度	平成 年度
メタン			
一酸化二窒素			
HFC PFC SF6			

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
フロン類				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

生産量(t)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成32年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	41,889	31,285	1.34	20.2	35,102	32,683	1.07
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	523.40	20.1	-	-	417.94
目標設定の考え方	リョービ(株)の国内グループ会社全体で、平成32年度までに、CO ₂ 排出量生産高原単位を平成25年度比で13%削減する。(当社は、溶解炉の燃料転換<A重油→LNG>等により20%の削減を見込んでいる。)						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	重油使用量分を原単位で35%削減	1. 溶解炉の燃料転換(A重油→LNG)及び高効率リジネーターの導入 2. 溶解炉の内壁(耐火物)更新による溶解効率向上 3. 溶解炉前炉の遮熱塗装による溶湯保持効率の向上
2	電気使用量の削減	電気使用量を原単位で5%削減	1. 電気保持炉の計画更新 2. 電気保持炉の遮熱塗装による溶湯保持効率の向上 3. 構内天井照明のLED化 4. 省エネ・高効率タイプの設備採用 5. 照明、冷暖房の適正使用 6. コンプレッサーの計画更新
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み(環境価値の活用等)

	種 類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物の削減	リサイクル率を平成32年度までに、99.0%以上に向上	1. 廃棄物のリサイクル化推進
2	社会貢献	環境保全活動を通じて地域社会に貢献する。	1. 会社周辺の県道清掃の実施 2. アルミ缶回収の収益金等による福祉機材の寄贈を実施
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

ISO14001の環境マネジメントシステムの推進体制とします。

- <部会長>
- <副部会長>
- <部会責任者>
- <推進責任者>
 - ・TPMセンター
 - ・総務
 - ・経理
 - ・管理
 - ・加工
 - ・品管
 - ・検査
 - ・工務
 - ・金型
 - ・鑄造一
 - ・鑄造二
 - ・鑄造三
 - ・鑄造技術
 - ・Rミラ広管

(2) 実施状況の点検・評価

定期的な内部環境監査及び外部監査等により、達成状況の確認と未達成項目の改善計画を確認しており、その結果を踏まえて、次年度の環境目的・目標に展開しています。

(3) 計画書等の公表

リョービグループの環境報告書で、毎年の状況を公表しています。